

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	151人	社会	152人	数学	152人
	理科	152人	英語	152人		

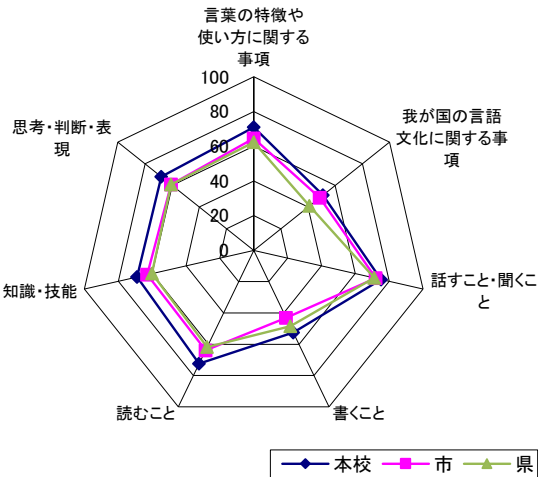
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	51.0	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	75.2	72.1	71.2
	書くこと	52.5	43.1	48.5
	読むこと	72.4	63.9	61.8
観点	知識・技能	68.9	62.9	60.1
	思考・判断・表現	68.1	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

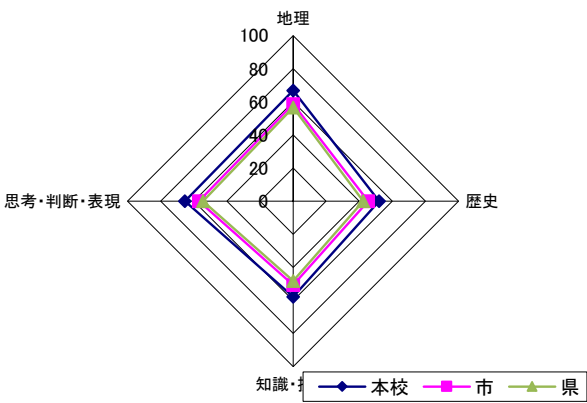
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は市平均を6.4ポイント、県平均を8.6ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きの問題の正答率は、全ての問題で市、県の平均を上回っている。特に、「汗」の読みを問う問題の正答率は100%である。 ●短歌の表現技法を問う問題の正答率は、市、県の正答率を9ポイントほど下回っている。	・漢字の読み書きの学習に関しては、漢字ワークを活用しながら学習をすすめていきたい。また、定期的に漢字の小テストを実施することで定着を図っていききたい。 ・短歌や詩などの表現技法に関しては、例を示しながら確認を行うだけでなく、表現技法を短文の中で用いるなど、実践的な問題演習を行うことで知識の定着を図っていききたい。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は市平均を2.3ポイント、県平均を9.9ポイント上回っている。 ○無回答の割合も2.7%であり、市、県の平均を下回っている。	・昨年度、一昨年度と歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題に関しては、課題が見られたが、今年度の正答率は改善が見られた。今後とも、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す際の基本的事項を指導するだけでなく、教科書教材以外の古文の音読を増やすなどして、仮名遣いに慣れさせていきたい。
話すこと・聞くこと	正答率は市平均を3.1ポイント、県平均を4.0ポイント上回っている。 ○条件に従って話し合いのまとめを書くことについての問題の正答率は、31.8%で市の平均を9.8ポイント、県の平均を10.8ポイント上回っている。	・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるようにするために、互いの発言の根拠を適切に捉える学習をすすめていきたい。また、その際に、聞き方に関しても、話の要点を抑えられるよう指導を工夫していききたい。
書くこと	正答率は市平均を9.4ポイント、県平均を4.0ポイント上回っている。 ○書くことに関する全ての問題の正答率は、市、県の平均を上回っている。特に、自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかどうかを問う問題に関しては、市の平均を12.3ポイント、県の平均を7.6ポイント上回るなど高い正答率であった。	・条件作文や短作文を適宜書かせたり、生徒相互で互いの文章を評価しあうなどすることで、書くことの能力の向上を図っていききたい。
読むこと	正答率は市平均を8.5ポイント、県平均を10.6ポイント上回っている。 ○読むことに関する全ての問題の正答率は、市、県の平均を上回っている。特に、場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるか問う問題の正答率は、市の平均を16.5ポイント、県の平均を18.5ポイント上回っている。	・正確な文章読解のために、接続詞に注目して段落同士の関係性を捉えたり、文と文のつながりを考えさせたりしていききたい。 ・叙述を基にして文章を読むことで、筆者の考えを把握させたり、登場人物の心情の変化を捉えさせたりできる力を更に高めていきたい。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	66.9	58.7	56.6
	歴史	52.0	45.4	42.4
観点	知識・技能	57.8	50.7	48.2
	思考・判断・表現	65.3	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

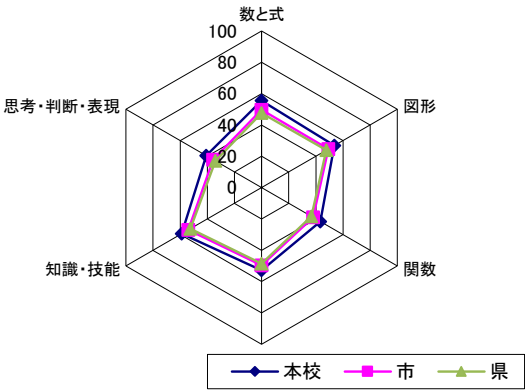
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	正答率は市平均を8.2ポイント、県平均を10.3ポイント上回っている。 ○特に、問題形式が記述式のものについては、いずれの問題においても県の平均を10ポイント以上上回っており、文章で表現する力の定着がみられる。 ○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、アンゴラの経済的な課題について表現しているかをみる問題では、市平均を21.9ポイント、県平均を24ポイント上回っている。 ●六大陸と三大洋の名称と位置関係について理解しているかどうかをみる問題では、本校の正答率は51.3ポイントで、市平均を0.1ポイント下回っている。 ●東南アジアの国々に関する統計資料を読み取ることができるかどうかをみる問題では、本校の正答率は20.4ポイントで、市や県も同程度であり、低い正答率であった。	・様々な資料や問いに触れることで、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を設ける。 ・複数の資料を組み合わせる活動の機会を設ける。 ・六大陸と三大洋について、様々な視点や角度から地図をみる機会を設ける。 ・統計資料を読み取る機会を設け、適切に読み取る技能を身に付ける。
歴史	正答率は市平均を6.6ポイント、県平均を9.6ポイント上回っている。 ○すべての問題で市・県の平均を上回っている。 ○特に、資料から読み取った内容を考察し、表現する問題では、市や県の平均を大きく上回っている。 ●桓武天皇の政治に関連する資料や建設物について、資料を基に判断しているかどうかをみる問題については、本校の正答率は10.5ポイントで、市や県も同程度であり、低い正答率であった。	・歴史的事象について、基礎的・基本的な知識・技能を確実に理解させる。 ・資料(史料)に触れる機会を増やし、問いに対して適切に情報を読み取る力を付けていく。 ・複数の資料を組み合わせる活動の機会を増やし、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を増やす。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.5	49.7	47.6
	図形	53.6	49.2	47.7
	関数	43.3	38.0	36.8
	データの活用	52.8	49.6	48.5
観点	知識・技能	58.9	54.0	52.5
	思考・判断・表現	40.9	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

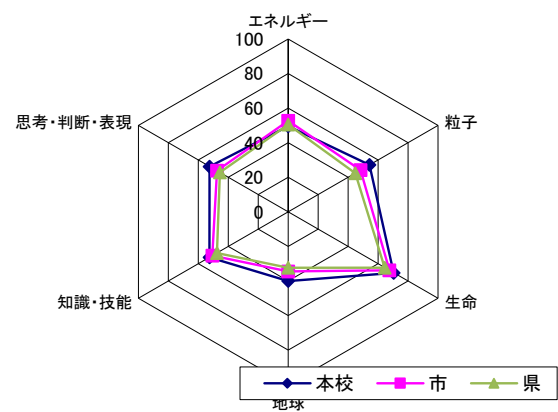
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は市平均を5.8ポイント、県平均を7.9ポイント上回っている。 ○「不等式が表していることを説明する」問題では、市と県の平均をそれぞれ11.1ポイント、12.7ポイントと大きく上回っている。 ○「正と負の利用」の問題では、市と県の平均を、7.2ポイント、10.5ポイント上回った。	・全体的に数と式に関する問題については、問題を理解している生徒が多い。しかし、個人的に弱点がある問題については個別にわかるまで指導していく必要がある。また、計算の方法を理解していない生徒については、個別に支援をしていきたい。 ・「与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す」問題については、式と図との関係性に気付けない生徒が多いので、数多くの演習問題や入試問題を通して理解させたい。
図形	正答率は市平均を4.4ポイント、県平均を5.9ポイント上回っている。 ○「回転移動したときに重なる図形を選ぶ」問題では、市と県の平均をそれぞれ9ポイント、12.1ポイント上回っている。 ○「平行移動したときに重なる図形を選ぶ」問題では、市と県の平均をそれぞれ9.5ポイント、12.4ポイント上回っている。 ●「角の二等分線を作図する」問題では、市と県の平均をそれぞれ4.4ポイント、5.4ポイント下回っている。	・作図に関して、基本となる3つの作図(垂線・垂直二等分線・角の二等分線)をしっかりと抑えさせ、それぞれの特徴も身に付けさせたい。問題演習等を通して、理解できるように指導していきたい。 ・図形や立体の面積や体積を求める問題で、つまづきを見せている生徒が多少なりともいるようなので、まず、面積や体積を求める公式を着実に身に付けさせ、正しい答えが導けるように指導していきたい。
関数	正答率は市平均を5.3ポイント、県平均を6.5ポイント上回っている。 ○「与えられた条件から、答えを求める」問題では、市と県の平均をそれぞれ8.3ポイント、9.9ポイント上回っている。 ●「比例のグラフを、yの変域を示して説明する」問題では、市と県の平均をそれぞれ3.5ポイント、4.4ポイント下回っていて、正答率も9.2と低かった。	・比例、反比例の性質を身に付けさせ、式、表、グラフの関連性なども十分に理解させるよう指導していきたい。また、多くの演習問題を解かせることで、理解の定着を図り、1次関数や2次関数の学習につなげていきたい。 ・変域とグラフに関する問題で、苦手に感じている生徒が多い。範囲が決まるとグラフも変わる、ということを日常の事象を例にして丁寧に指導していきたい。
データの活用	正答率は市平均を3.2ポイント、県平均を4.3ポイント上回っている。 ○「ヒストグラムから読み取った傾向をもとに、自分の考えを理由とともに説明する」問題では、市と県の平均をそれぞれ、8.2ポイント、9ポイント上回っている。 ●「ヒストグラムについて『必ずいえること』を話している生徒を選ぶ」問題では、市と県の平均をそれぞれ2.5ポイント、2.9ポイント下回っている。	・データをグラフにまとめることは、データの傾向を知るための有効な手段になってくるので、丁寧に指導していきたい。また、まとめたグラフから傾向を考えたりすることで、箱ひげ図の学習にもつなげていきたい。 ・この単元に出てくる重要な語句をきちんと身に付けさせていきたい。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.6	52.7	50.5
	粒子	54.3	48.3	44.9
	生命	70.4	67.6	64.4
	地球	40.0	34.4	32.3
観点	知識・技能	52.6	50.7	47.6
	思考・判断・表現	52.5	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

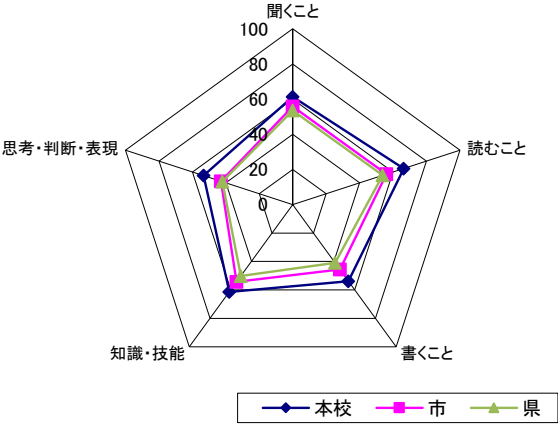
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は市平均を3.1ポイント、県平均を0.9ポイント下回っており定着していない内容が見受けられる。 ○音の変化については市平均を9.3ポイント、県平均を10.4ポイント上回っている。 ●虚像と実像の作図の問題で平均を大きく下回っている。 ●ばねを用いた重力との関係を表す問題で平均を下回っている。	・エネルギーの分野では音の変化に関してオシロスコープを用いた実験を行い、視覚的に理解しやすい授業を展開していきたい。 ・光の分野では凸レンズを用いた実験を多く行っていたことで内容の理解は図れたが、作図といった実技内容の定着が測れていなかったため、指導を心がけていきたい。
粒子	正答率は市平均を6.0ポイント、県平均を9.4ポイント上回っている。 ○状態変化を問う内容では市平均、県平均共に10.0ポイント以上超えている。 ●メスシリンダーの使い方を問う内容では市平均を4.1ポイント下回っていた。	・さまざまな水溶液や気体の性質について実際に調べ、日常生活の内容と合わせることによって身近な問題として捉えさせる。 ・水溶液の濃度の計算を繰り返し行うことで公式の意味を理解させる。 ・実験器具の利用方法や実験手順の確認を繰り返し指導していく。
生命	正答率は市平均を2.8ポイント、県平均を6.0ポイント上回っている。 ○植物の特徴を問う内容では全て市平均、県平均のポイントを上回っていた。 ●節足動物の中から昆虫ではない無いものを選ぶ内容では市平均を5.9ポイント、県平均を4.4ポイント下回っていた。	・さまざまな生物の特徴を比較することで類似点や相違点に気づく力を養っていく。 ・多くの種類がいる無脊椎動物を分類できるよう、繰り返し問題解くだけではなくグループ活動を通して多角的な視点で気が付けるよう指導する。
地球	正答率は市平均を5.6ポイント、県平均を7.7ポイント上回っている。 ○岩石の特徴を問う内容では全て市平均、県平均のポイントを上回っていた。 ●地層の読み方と時間の変化を読み解く問題では市平均を9.8ポイント、県平均を8.6ポイント下回っていた。	・地層の観察からどのような背景から積み重なったのか思考できる力を養ってだけでなく、地層を示した表から読み取る力を育むことが出来るよう指導していく。 ・初期微動と主要動の速さの違いを用いた計算問題だけでなく、時代に合せた緊急地震速報を使った計算問題に触れさせていく。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.3	55.8	53.5
	読むこと	66.4	56.0	53.8
	書くこと	53.9	45.6	40.9
観点	知識・技能	61.4	54.3	50.2
	思考・判断・表現	53.3	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、市平均を5.5ポイント、県平均を7.8ポイント上回っている。 ○日常的话题について、必要な情報を聞き取り、最も適切なものを選択する問題では、市平均より14.2ポイント、県平均より14.9ポイント上回っている。 ●絵を適切に表している英文を選び、情報を正確に聞き取る問題では、市平均を4.1ポイント、県平均を5.3ポイント下回っている。	・毎時間の授業での帯活動やALTとの授業時のやりとりを通して、リスニング力の向上を図る。 ・既習事項の確認をしたうえでリスニングの練習を積み重ねていく。 ・内容を捉えて聞き進められるよう、キーワードに注意してリスニングを実施したり、実施後はスクリプトを利用して内容を確認する。
読むこと	正答率は、市平均を10.4ポイント、県平均を12.6ポイント上回っている。 ○日常的话题について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み、文中の空欄に適切な語を書く問題では、市平均を21.6ポイント、県平均を23.3ポイント上回っている。 ●対話文の中で、適切にbe動詞の過去形(was)を選択できるかという問題では、市平均を0.2ポイント下回っている。	・教科書の内容をベースにした音読活動を繰り返し取り入れることで、短い文章から長い文章が読めるようになるよう、段落ごとの内容に注目させながら読ませる。 ・グラフや表など、文章以外の情報から必要な情報が読み取れるよう、多面からアプローチされた内容のものを徐々に扱うようにしていく。
書くこと	正答率は、市平均を8.3ポイント、県平均を13.0ポイント上回っている。 ○問題全ての項目において、市平均、県平均を上回っており、特に与えられた情報に基づいて、一般動詞(like)の三人称単数現在形の肯定文を正確に書けるかという問題では、市平均を17.0ポイント、県平均を20.9ポイント上回っている。	・既習内容を繰り返し復習し、それらを活用して英文が正しく書けるようにする。 ・演習問題に限らず、生徒自身が自分のことや自分の考えについて簡単な語句や文を用いて英作文を行う時間を設ける。 ・教師が添削をしたり助言をしたりすることで、徐々にまとまりのある文章が書けるように指導する。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答割合は72.6%で、市平均より6.5ポイント、県平均より5ポイント上回っている。「家で学校の授業の予習をしている」の肯定的回答割合は、62.1%で市平均より15.7ポイント、県平均より20.3ポイント上回っている。学習に自ら進んで取り組めている生徒が多く、効果的に学習に取り組んでいる自主学習ノートの紹介を行うなど、生徒の学習意欲の更なる喚起に努めていきたい。

○「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答割合は71.2%で、市平均より5.9ポイント、県平均より8.6ポイント上回っている。生徒は、定期テストに向けて学習計画表を使い定期テストに臨んでいる。また、各教科でテストの振り返りも行っているため、生徒も間違えた問題を復習する習慣が身についていると考えられる。今後も、学習計画表による計画作りとテストの振り返りを行っていくことで、学習内容の定着を図っていききたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答割合は82.3%で、市平均より6.2ポイント、県平均より9ポイント上回っている。また、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定的回答割合は74.5%で、市平均より6.4ポイント、県平均より7.1ポイント上回っている。このことと予習に意欲的に取り組んでる生徒が多いことから、生徒は自分で学習を進める中で自分の学習に関してメタ認知を行い、「学習の中でもっと知りたいこと」を理解して学習を進めていることが分かる。今後も、生徒の学習意欲を高めていけるよう各教科で授業改善に取り組んでいきたい。

●「授業では、クラスの友達との間で話あう活動をよく行っている」の肯定的回答は96.7%であり、多くの授業で話し合い活動が行われていることが分かる。しかし、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答割合は70.6%で、市平均より7.9ポイント、県平均より7.3ポイント下回っている。このことから、各クラスとも心理的安全性があり生徒は授業の中で話し合い活動を行っているが、自分から進んで参加することはできていない。生徒が、進んで話し合い活動に取り組めるようにするために、国語科の学習を中心に、「様々な場面で、互いの発言の考えや根拠を適切に捉える」学習を行い、聞き方の要点をおさえられるように指導していきたい。

●「自分の行動や発言に自信を持っている」の肯定的回答の割合は52.3%であり、県、市の平均と同程度である。また、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」の肯定的回答の割合は62.1%であり、県、市の平均と同程度である。本校の多くの生徒が運動会などの学校行事や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。しかし、多くの生徒が「自信をもてずに」取り組んでいることも事実であり、今後は生徒が学校行事や学級活動など様々な場面で、自己肯定感や自己有用感を高められるよう支援、指導していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習の基盤となる態度や家庭学習(自主学習)習慣の育成と、対話的で深い学びを通じた思考・判断・表現力の向上	○授業と家庭学習のつながりを深め、学習意欲と成果を向上させる。 ・授業内容の確認と定着のための練習を家庭学習で行う。 ・予習型の家庭学習を取り入れ、授業への理解を深まり易くする。 ・目標(めあて)の設定と、自分がどれだけ進歩したのか振り返る時間を作ることで、自己肯定感を高め、モチベーションを持続させる。 ○生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促進し、思考力や表現力の向上を支援する。 ・探究学習の導入と対話の場を意識的に設定する。 ・「問い」を重視する授業デザイン ・ICTを活用した双方向の学び	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した生徒の肯定的割合は、県や市の平均を上回っている。特に「授業の予習をしている」については、市平均を15.7ポイント、県平均を20.4ポイントと大きく上回った。 ・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達と話合ったり、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した生徒の肯定的割合は、県や市の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と回答した生徒の肯定的割合は、県や市の平均を下回っている。	授業での目標(到達度)やめあて、ねらいを明確に示すとともに、授業の最後に振り返り、まとめの活動を確実に行うようにする。	・授業の始まりに目標、めあてを確認することにより、学習の方向性を示すとともに、生徒がその日の学びを理解する一助としていく。(見通しをもった学びが可能となることから、学びに対する主体性が育まれると考える。) ・目標、目当てを確認することにより、ゴールが明確になることから、達成感を得ることやモチベーションの向上につなげていく。 ・振り返り、まとめを行うことにより、学びの整理、定着、次時への準備を意識させるとともに、それによって生徒が主体的に学びを深め、自信をもつきっかけとなるようつなげていく。